

物
類

756

256

228

特41
756

鶏飼

身ハ安房^{アノ}志^シ多^タより出^デ

備^ビて^テ料^{リョウ}未^ミ甲^カ斐^ヒ國^{クニ}と^ト乃^ノ乃^ノび^ビの^ノ程^ハに

此^{コノ}度^{タビ}甲^カ斐^ヒ國^{クニ}と^ト乃^ノ乃^ノび^ビの^ノ程^ハに

い^ハつ^ハと^ト志^シ多^タの^ノ安^{ヤス}房^フの^ノ清^{キヨ}治^チ立^タち^チ出^デる^ル

志^シ多^タの^ノ乃^ノ乃^ノび^ビの^ノ程^ハに

ぬ^ル程^ハに

明治
41. 20
内交

其鶏つゝの七者まぐら早約 正徳道
ひれやまぐらまぐら早約 罪障キヤク 断悔ダツ
業力のうらまじくはまぐら早約 徳まぐら
鶏ニシロコはあまぐら早約 あらまぐら早約
はらまぐら早約 業力の善まぐら早約 はらまぐら早約

まぐら早約 徳まぐら早約 あらまぐら早約
鶏ニシロコはあまぐら早約 あらまぐら早約
はらまぐら早約 業力の善まぐら早約 はらまぐら早約
まぐら早約 徳まぐら早約 あらまぐら早約
鶏ニシロコはあまぐら早約 あらまぐら早約
はらまぐら早約 業力の善まぐら早約 はらまぐら早約
まぐら早約 徳まぐら早約 あらまぐら早約
鶏ニシロコはあまぐら早約 あらまぐら早約
はらまぐら早約 業力の善まぐら早約 はらまぐら早約
まぐら早約 徳まぐら早約 あらまぐら早約
鶏ニシロコはあまぐら早約 あらまぐら早約
はらまぐら早約 業力の善まぐら早約 はらまぐら早約

さう出デてテ一ニ度ニはハなニらニうニあニらニ鶏ニ
とモもテ海ノ底ノをシてイたカらク面白ク
いハるハ様ノやハ底ノをシてイたカらク面白ク
ろク思ハふハ海ノ底ノをシてイたカらク面白ク
きレ海ノ底ノをシてイたカらク面白ク
なニ世ノもシてイたカらク面白ク
水ノのようにあニらニうニあニらニうニあニらニうニ

海ノ底ノをシてイたカらク面白ク
ホノもシてイたカらク面白ク
おノもシてイたカらク面白ク
魚ノのようにあニらニうニあニらニうニあニらニうニ
鶏ノのようにあニらニうニあニらニうニあニらニうニ
身ノのようにあニらニうニあニらニうニあニらニうニ
けノのようにあニらニうニあニらニうニあニらニうニ

法の種と「各々」の家をまましく後同
は統め弟ららのちをして後は元一一
ままく早地獄をままあらび眼
前の境界悪鬼のあ作かの者
多年の昔より江は後の者
たらししはもて織たらびと盡一
人身をいてもならく世間は虚な

障の羅も入らぬと一僧「高らり
ままたらししはもて織たらびと盡一
悪鬼のあ作かの者
私のあらはなきの法乃助を毎日
たも信まきまられ遠の松原
ままく早地獄をままあらび眼
前の境界悪鬼のあ作かの者
多年の昔より江は後の者
たらししはもて織たらびと盡一
人身をいてもならく世間は虚な

256
228

複製不



明治廿二年六月廿五日從
同 卅四年一月廿八日迄 出版御屆濟
同 四十三年三月廿五日再版
同 四十四年一月拾日別製本御屆

訂正者

觀世清



發行兼
印刷者

京都市上京區三条通美屋町東光角

檜

常之

(特電話二重
報警時金大段三六)



手紙
さうさうさうさうして僧會を借る
あらうさうの縁縁のついでに公果
撰よるさうさうの法系にや
他を考へてきつたあれ

